

日本に来た時の気持ちと夢

昭和中学校1年 鄭天佑

日本に来てから、中国とは全く違う多くのことを発見しました。そして私の人生は劇的に変わりました。

日本の学校は 規律に関しては特に厳格ではありませんが、悪い行いや規律違反は非常に深刻に受け止められ、もし見つかった場合は注意されます。給食の時間に牛乳を配っていた時、早く仕事を終わらせて早く給食を食べたいと思い、机の上に横向きに適当に牛乳を置きました。何人かの生徒は不快に感じましたが、私は気にしませんでした。学期末の保護者懇談会で先生に叱責され、初めて自分の態度がどれほど失礼だったか、そして日本人がどれほど細やかな気配りをしているかを実感しました。それ以来、私は牛乳を注意深く配り、どんなことでも慎重にやるようにし、先生の私に対する評価は向上しました。

日本の学校の雰囲気も中国とは違います。先生は優しく、生徒たちは寛大です。あるグループディスカッションでは、私は日本語があまり堪能ではなかったため、何も考えが浮かびませんでした。しかし、クラスメイトや先生が次々に私を励まし、意見を言うように促してくれました。意見を述べると、みんなが私を褒めてくれて、私の意見を採用してくれました。その瞬間、私の心は温かくなり、この経験のおかげで日本人に対する私の見方は大きく変わりました。

日本の学校は学業よりも、体力など総合的な成長を重視しています。中国では、きちんと勉強していれば間違いも許されます。しかし、日本人は違います。日本人はすべての科目を重視し、私が特に重視していなかった美術や音楽でさえ、期末試験に含まれています。日本の学校は、生徒の将来のために、あらゆる側面から成長を考えているのだと実感しました。私はすべての科目で一生懸命勉強し、注意深く授業を聞き、総合的に能力の高い人間になろうと決意しました。

公共のマナーに関しては、日本人は本当に優れていると思います。中国の方々にもぜひ見習ってほしいです。世界は一つの大きな家族であり、私たちはみんな家族です。日中友好が永遠に続きますように！